

KIKUGAWA

ART 2021

菊川のアートイベントを発信するフリーペーパー



TAKE FREE

菊川市1%地域づくり活動交付金事業
『まち×人×アート』プロジェクト



制作・発行
協力
表紙絵画

NPO法人アートコラールきくがわ
常葉大学附属菊川高校
NPO法人アートコラールきくがわ

HPIはこちら ▶



山下 輝



まち×ひと×アートプロジェクト

このイベントは、NPO法人アートコラールきくがわと常葉大学附属菊川高校美術・デザイン科の協働事業「まち×ひと×アートプロジェクト」の一環で、文化や芸術活動を身近なものに感じてもらうながら、「アートの力で菊川の魅力を発信！」をテーマに4年前から取り組んでいます。当初は講座のお手伝いで子どものサポートをしていましたが、活動に手応えを得た高校生は、美術デザイン科ならではの発想を生かした事業に発展しています。

「高校生の地域貢献」への思い

今年度はコロナ禍で活動のスタートが遅れましたが、昨年までの楽しかった経験を活かし、美術・デザイン科の特技を生かした地域貢献できる貴重な機会と捉え、準備から当日までを笑顔で乗り切りました。

みんなでつくる 「みんなのアソビバ」

常葉高校美術・デザイン科
有志が実施

日時：11月1日
会場：市役所庁舎東館「プラザきくる」
きくる広場

11月1日、市役所庁舎東館「プラザきくる」東側のきくる広場で「みんなで作るみんなのアソビバ」が開催されました。このイベントでは、きくる広場が子どもから大人まで誰もが自由に遊べる芝生の空間に大変身し、親子連れを中心におよそ四百人が訪れ楽しみました。

このイベントを実施したのは、常葉大学附属菊川高校美術・デザイン科有志の四十三人。9月にアイデア出しのためのワークショップに参加し、7つのグループに分かれ企画会議を開催。当日は落ち葉プール、スライム作り、秘密基地、ティッシュアート、エコバックづくりなどアソビを体験するコーナーを企画し運営しました。



Voices!!



新型コロナウイルス感染症の影響で、あまり準備ができませんでしたが、想像以上にたくさん子どもたちが来てくれて嬉しかったです。みんなで準備した成果を出すことができ良かったです。

常葉大学附属菊川高校 2年
川島 ゆうさん



お世話になっている地元の皆さんにアートで貢献したいという思いで始めました。活動を通して、「美術」は身近で日常生活に必要なものであることがお伝えできればと考えています。

常葉大学附属菊川高校
内山 節男教諭

中央公園

菊川市本所にある菊川中央公園です。公園の東側からは広々とした茶畑、西側からは菊川の街を見ることが出来ます。私たちが行ったのは夕日がとても綺麗に見える時間で、夕日をバックに写真を撮り、広い公園内を走り回るなど、子供のころに戻ったように公園を楽しむことができました。菊川市を感じることができる公園でした。

グリフォン

菊川市牛淵にある洋菓子工房グリフォンです。全て手作りの美味しいケーキやクッキーなどが売られており、落ち着いた雰囲気の特徴の古民家カフェです。店内には、ゆったりとした音楽が流れており、読書や女子会を楽しむ場にもちょうどいいです。日頃のリフレッシュに訪れてみてはいかがでしょうか。



▲夕日がきれいな絶景スポット

常葉大菊川高校 みらい学講座

みらい学講座は常葉大学附属菊川高等学校と菊川市が共同で行っている活動です。私たちは菊川市のおすすめスポットを、インスタグラムを活用し紹介しました。高校生ならではの観点で写真を撮影し投稿する文章を考えました。菊川市の良い所をたくさん発見することが出来ました。私たちが行ったスポットの一部を紹介します。

日時：4月～3月
会場：菊川市内各所

丹野池

菊川市丹野にある丹野池です。丹野池の周りには遊歩道があり、お散歩コースになっています。遊歩道には百メートルごとに動物をかたどった可愛い石像が立っており、池を見下ろしたり季節の自然を味わったり楽しく散歩をすることができます。私たちが訪れた12月は満開の椿の花がとても綺麗でした。



▲椿のじゅうたん



▲落ち着いた雰囲気でおいしいケーキを!!



▲中央公園 夕日にジャンプ

Voices!!



私は1年生のときからみらい学講座に参加しています。地元である菊川市の課題を考えるこの活動はとてもやりがいがあります。今年は菊川市の紹介をしましたが、住んでいる私でも知らない菊川市の魅力や良い所をたくさん発見でき、それを発信でき、とても有意義な活動でした。

常葉大学附属菊川高校 2年
牧野 成美さん



みらい学講座は生徒が主体的に行動する活動です。今年度は実際に菊川市を回り、女子高生の目線から菊川市を紹介する活動を行いました。生徒たちの楽しい姿や菊川市の魅力ある風景がたくさん投稿されているので、ぜひ常葉大菊川高校のInstagramをご覧ください。

常葉大学附属菊川高校
橋本 勇輝教諭



夏のアート コラボ ワークショップ

日時: 8月9日
会場: プラザきくる2階多目的エリア



東日本大震災をきっかけに絵を描き始めた当法人の会員が、コロナ禍でも子どもたちに楽しんでもらおうと会員たち呼びかけたのがきっかけで開催。アクションペインティング、「ストラップづくり」「ペーパークラフト」「クレヨンアート」など会員たちは初のコラボ企画で、子どもたちの笑顔に元気をもらいました。

コロナ禍でも新たな企画

8月9日、プラザきくる多目的エリアで「夏のアートコラボワークショップ」が開催され、およそ百五十人の親子連れでにぎわいました。NPO法人アートコラールきくがわが、新型コロナウイルス感染症に伴いイベントが延期や中止になる中、夏休み中の子どもたちに地域で楽しんでもらおうと企画しました。

夏休み中の子どもたちに 思い出を

Voice!!



子ども達の表情がとてもいきいきしていました。感性豊かでユニークな作品が多く、見ていただけで楽しい気持ちにさせてもらいました。コラボイベントを無事に開催できて良かったです。また一緒にアートで遊びましょう。

NPO法人アートコラールきくがわ
山下 輝氏



プラザきくる 竹灯籠展

日時: 8月7日～9日
会場: プラザきくる



たねあかりは、放棄茶園から取れる『お茶の実』を有効活用し、竹灯籠と組み合わせることで、お茶や竹の可能性を見出します。最終的には新たな文化の創出と放棄茶園と放棄竹林の課題の解決を目指します。

放棄茶園と放棄竹林

8月7日から9日まで、プラザきくるで竹灯籠展を開催し、およそ三百人の来場者でにぎわいました。竹灯籠は市民活動団体たねあかりが制作し、「きくのん」や「あまびえ」などが描かれカラフルで幻想的な灯が夏の夜を彩りました。

カラフルで幻想的な灯り

Voice!!



4年前の市民協働センターの講座「きくがわ未来塾」から発足した団体です。放置竹林の竹を利用し、竹灯籠、竹細工を作り、イベント会場を演出、ワークショップ、販売も行いながら竹林の緩和を目指しています。たねあかりで交流を生み出し優しい灯りでまちづくりに絆げたいと考えます。

たねあかり
塚本 隆男氏





きりりん公園の イルミネーション

日時:11月13日~1月24日
会場:きりりん公園(駅南新町商店街)



きくがわ 灯りの 散歩道

日時:3月19日
会場:菊川赤レンガ倉庫 きくる広場

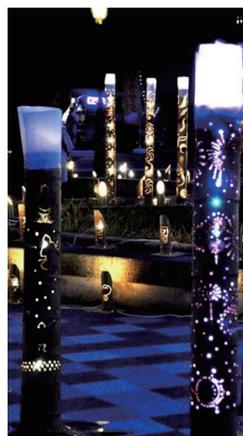


きりりん公園では、きりりんやパンダ、白馬などの動物たちのモニュメントが子どもたちに人気。お子さん連れのご家族がイルミネーションを楽しみ、小さい子どもたちは見上げながら満面の笑みを浮かべていました。

子ども連れでにぎわう

冷たく澄みきった空気の中、菊川駅南新町商店街のイルミネーションは、公園のシンボルの五メートルのキリンのモニュメントにLEDナイアガラライトやかわいい動物のイルミネーションモチーフ、ライトアップされた立ち木が飾られました。そこは暖かな雰囲気にも包まれ、街ゆく人の癒しのスポットとして、多くの人に人気の場所です。

街ゆく人の人気のスポット



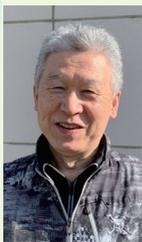
二つ目の会場であるきくる広場では、市民活動団体「たねあかり」が約二百五十本の竹灯籠により光の回廊を演出。その幻想的な光景に、訪れた子どもたちや大人たちから大きな歓声が上がっていました。今回のイベントには、多くの団体や企業、行政、地元住民が協力し、協働の輪が広がりました。

菊川の新たな魅力と賑わい！

3月19日、菊川駅前通りにて、アートで巡る「きくがわ灯りの散歩道」が開催されました。このイベントは、アートの力で地域に賑わいを生み出す「まち×ひと×アートプロジェクト」の一環として当NPOが主催。二つ目の会場の菊川市の文化財である赤レンガ倉庫では、掛川工業高校を今春卒業した安間睦さんが「大好きな菊川のまちの魅力を伝えたい」との思いから、菊川の過去・現在・未来をテーマにプロジェクションマッピングを上映。その美しい映像に大勢の観客から拍手が沸き起こりました。

幻想的な灯りが彩る

Voices!!



新町商店街は、『優しさあふれ友と遊ぶ街』をコンセプトに、まちづくりを行いました。各お店の店頭にかわいい小動物を置き、きりりん公園の大きなきりりん(キリリン)とピエロを中心に商店街を散策していただけるようにしました。小さなお子さま連れのご家族には特に喜んで頂いています。

新町商店街
組合長 菅沼 猛氏



Voices!!



小さい頃は地域で行われているイベントが楽しみで、中学生の吹奏楽部ではや成人式で演奏を披露すると、観客や知らない人が優しく声をかけてくれました。高校の卒業制作では「大好きな菊川の魅力を伝えたい」とプロジェクションマッピングを上映しました。

掛川工業高校 3年
安間 睦さん





ふじのくに 地域芸術 セッション

日時：1月30日
会場：市役所東館「プラザきくる」



田んぼ アート 菊川

日時：6月13日～8月16日
会場：菊川市下内田地区



文化芸術を地域で活動するメリットとして、遠州横須賀倶楽部の横山氏は「アートが住民に街並みを考える力を与えてくれる」と指摘。当法人代表の笠原からは「住民が地域の魅力を再発見できるから、まちづくりにアートは必要」と話しました。

アートで地域を再発見

当日は富士の山ビエンナーレ実行委員会、遠州横須賀倶楽部、原泉アートプロジェクト、NPO法人アートコラールきくがわ、NPO法人クロスメディアしまだが登場しました。

アートを核にまちづくり

「なぜ、アートがまちづくりに必要か」を題材にした講座が開かれ、芸術活動を核にした地域づくりに取り組む県内の5団体の代表が意見交換しました。

当日は富士の山ビエンナーレ実行委員会、遠州横須賀倶楽部、原泉アートプロジェクト、NPO法人アートコラールきくがわ、NPO法人クロスメディアしまだが登場しました。



図柄は大村さんが常葉大学造形学部在学中、松崎町を舞台に制作した絵本「うーちゃんのまつさき」は白い菟に乗って両親と再会する場面を描かれました。大村さんの母親が手作りした、かかしも立っています。

図柄は絵本「うーちゃんのまつさき」から

令和元年7月に発生した「京都アニメーション放火殺人事件」で亡くなられた菊川市出身の大村勇貴さん(当時二十三歳)の作品が、菊川市の夏の風物詩「田んぼアート」の図柄に採用されました。下内田の水田約千六百平方メートルに植えられた白、赤、黄など十種の古代米が色づき、作品を浮かび上がらせていました。

大村さんの絵画を再現

Voices!!



(UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川)
静岡県内の場所も手法もそれぞれ異なる、アートの取組を進める各団体のお話はとても魅力的でした。また同時に地域における「つなぎ手」の重要性を実感しました。様々な視点で物事を考える良いきっかけとなりました。

NPO法人クロスメディアしまだ
理事長 大石 歩真氏



Voices!!



大村さんの母親が下内田出身で、実行委員会の仲間とも親交があり、よく家族で鑑賞に訪れていました。事件の前から大村さんの図柄を借りる計画があり、事件後に再度家族に意向を聞くと、地域のためにと快い同意が得られました。

田んぼアート実行委員会
代表 池田 正氏

